PROGRAMME
REPORT

China

文部科学省委託平成30年度初等中等教職員国際交流事業

中国教職員招へいプログラム
実施報告書

2018
11.4 -11.10

文部科学省委託 平成３０年度初等中等教職員国際交流事業

中国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・福岡県大牟田市

2018 年 11 月 4 日(日) ― 11 月 10 日(土)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター （ＡＣＣＵ）

はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU: Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU は主にアジア太平洋地域の国々の相互理解と友好の促進を目的とし、日本政府および国際連合大学の協力のもと、2001 年より教職員の国際教育交流事業を開始しました。この国際教育交流事業は、日本と韓国、中国、タイおよびインドとの間で行われ、これまでに 4 千人近くの海外教職員を日本へ招へいし、また日本からは 1 千人近くの教職員を海外に派遣してきました。これにより、日韓・日中・日泰・日印間で、多くの教職員間交流および学校間交流が生まれ、これらの国々の相互理解と友好の増進に大きく貢献してまいりました。

日中間の国際交流事業としては、国際連合大学（UNU: United Nations University）の委託を受けて、文部科学省、中国教育部の協力のもとで国際教育交流事業「中国教職員招へいプログラム」が実施されました。2002 年から始まったプログラムを通して、これまでに延べ 1,657 名の中国教職員を日本に招へいしてきました。

翌 2003 年からは上記プログラムと対をなすものとして、毎年 10 名程度の日本教職員を中国へ派遣してきました。これらの交流事業の成果が中国政府に評価され、日中国交正常化 35 周年を記念する 2007 年からは中国の教育部による招へいプログラムとして、参加人数を倍増し、日中教職員相互交流のさらなる発展を目指して実施されるようになりました。

今年度は、文部科学省委託事業「平成 30 年度初等中等教職員国際交流事業」の一環として、2018 年 11 月 4 日から 11 月 10 日に中国より初等中等教育に携わる教職員を 25 名招へいしました。中国教職員の受入れにあたっては、おかげさまでこれまで中国政府による日本教職員派遣プログラムに参加したことのある方のご協力もいただき、交流を継続させることもできました。

中国の先生方には文部科学省にて、本邦における初等中等教育の概要、特別支援教育に関する説明を受けたのち、東京および福岡県大牟田市の学校および教育文化施設等の訪問、教職員や生徒との交流を通じて、各地における教育の現状と課題、訪問都市の教育の特徴をご覧いただきました。特に、大牟田市では、全国に先駆けて ESD（持続可能な開発のための教育）を推進してきた経緯があり、国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）と結びついた教育に力を入れる地方の取り組みを中心にご紹介いただきました。このたびの訪問が、日中双方の関係者にとって教育や教育現場に対する理解を深めることはもとより、帰国後の諸活動を通じて日中の教員間、学校間の交流のいっそうの発展に役立つよう願ってやみません。

最後に、このプログラムにご支援とご協力をいただきました、中国教育部、中国駐日本国大使館、文部科学省、及び、学校法人自由学園、大牟田市教育委員会、大牟田市立明治小学校、大牟田市立宮原中学校、福岡県立三池高等学校をはじめ、関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

2018 年 12 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

目　次

１．プログラム概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥5

２．実施内容・訪問記録‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥15

３．参加者アンケート‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥27

４．関係者コメント‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥43

訪問校や受入機関‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥43

事業担当者‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥49

付録　プログラム写真‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥53

新聞記事‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥58

訪問団の報告会資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥59

過去のプログラム実績‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥65

１．プログラム概要

プログラム概要

1．実施の背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現をミッションとして、教育と文化の分野において地域協力・交流活動を推進しています。その活動の一つとして、2001 年より日本と韓国・中国・タイ・インドとの間で教職員の国際交流事業を行ってきました。

日本と中国との間の国際交流事業としては、2002 年より中国から初等中等教育教職員を招へいプログラムを開始し、2003 年からはさらなる交流を促進するため、日本の初等中等教育教職員が中国を訪問するプログラムを実施してきました。これにより、2018 年 6 月までに、併せて 2 千人以上の日中教職員が双方の国より派遣されました。

本年度は文部科学省、中国教育部、大牟田市教育委員会、各訪問校の協力により、2018 年 11 月 4 日（日）から 10 日（土）までの 7 日間に渡り、中華人民共和国から初等中等教育教職員 25 名を本邦に招へいします。

2．目的・期待される成果

本プログラムは、下記の活動を通じて教職員が相手国に対する理解を深め、お互いに学び合い、さらに自国の教育現場において国際理解や持続可能な社会への取り組みを促進することで、ひいては日中両国の相互理解と友好の促進および持続可能な社会の実現に繋げることを目的としています。プログラムの成果として、教職員が自国の教育現場においてプログラムからの学びを児童生徒に還元すること、日本と中国の学校間の持続的な国際交流を育むこと、国際理解や持続可能な社会への取り組みを推進する担い手となることなどが期待されています。

3．活動内容

- 日本の教育制度および教育政策についての研修
- 日本の学校およびその他の教育・文化施設の視察
- ESD（持続可能な開発のための教育）等を含む特色ある取り組みの視察
- 教職員および児童生徒との交流・意見交換

4．日程

日付	日程	訪問先	活動
11 月 4 日（日）	第 1 日	東京	・日本到着 ・オリエンテーション ・開会式・歓迎交流会
11 月 5 日（月）	第 2 日	東京	・文部科学省表敬訪問・講義 ・学校訪問①
11 月 6 日（火） ～ 11 月 8 日（木）	第 3-5 日	福岡県 大牟田市	・福岡へ移動 ・大牟田市教育委員会表敬訪問 ・訪問地教育事情概要説明、 ・学校訪問②～④（授業見学、教員・児・童生徒との交流）、

			・教育文化施設・史跡視察など
11 月 9 日（金）	第 6 日	福岡県 大牟田市	報告会、閉会式
11 月 10 日（土）	第 7 日	福岡空港	日本出発

5.参加者数

25 名

6. 参加資格

(1) 中華人民共和国の国籍を有すること。
(2) 所属する学校等からの推薦を受けた、中華人民共和国の初等中等教育の教職員であること（教育行政官及び教育専門家を含む)。
(3) プログラムを通じて、日本の教職員と教育経験に関して積極的に意見交換し、活動に携わること。
(4) プログラム参加後は、教育現場において国際理解および日中交流の推進に取り組むこと。
(5) 健康で、プログラムの全日程に参加が可能であること。
(6) 中国語（普通話）での会話が可能であること。

なお、参加者は以下の者が望ましい。
①45 歳以下で教員経験 3 年以上の者。
②国際理解教育、ESD（持続可能な開発のための教育）等に高い関心を持つ者。
③日本の教員、児童生徒、学校との交流の機会を求めている者。

7.渡航費等諸経費

ACCU は下記の経費を負担する。
宿泊と食事：
プログラム期間中の日本国内の宿泊（朝食含)、およびプログラム期間中の食事。
（食事が提供されない場合については、定額の食費を支給する。）
日本国内の移動旅費：
プログラム期間中の、自由行動時以外の国内移動旅費。

※日本と中国の往復航空運賃は中国政府が負担する。

8. 通訳

公式プログラム期間中は原則として日本語と中国語（普通話）間の逐次通訳が行われる。

プログラム日程

日にち	時間	内容	宿泊
11/4(日)	08:35-12:50	北京首都国際空港発-羽田空港着（CA181）	ホテルフクラシア 東京都中央区晴海 3-8-1 Tel：03-3533-7111
	13:45-14:20	昼食	
	15:00-15:30	ホテル着、チェックイン	
	15:30-16:30	オリエンテーション	
	17:30-19:20	開会式・歓迎交流会	
11/5(月)	08:50	ホテル発	
	09:45-11:15	文部科学省表敬訪問、講義	
	12:30-17:30	学校法人自由学園訪問（昼食を含む）	
	18:30	ホテル着、夕食（各自）	
11/6(火)	08:15	各自チェックアウト、ホテル出発	ホテルニューガイアオームタガーデン 福岡県大牟田市旭町 3-3-3 Tel: 0944-51-1111
	09:50-12:00	羽田空港発-佐賀空港着（NH981）	
	13:15-14:40	ホテル着、昼食、チェックイン	
	15:00-16:55	大牟田市教育委員会オリエンテーション、市長表敬訪問	
	18:00-20:00	歓迎交流会	
11/7（水）	09:20	ホテル発	
	09:30-16:45	大牟田市立明治小学校訪問（昼食を含む）	
	17:00	ホテル着、夕食（各自）	
11/8（木）	08:40	ホテル発	
	09:00-12:00	大牟田市立宮原中学校訪問	
	12:20-16:50	福岡県立三池高等学校訪問（昼食を含む）	
	17:00	ホテル着、夕食（各自）	
11/9（金）	09:00 まで	チェックアウト	博多グリーンホテル天神 福岡県福岡市中央区大名 2-9-11 Tel:092-722-3636
	09:30-11:30	報告会・閉会式	
	12:00-12:30	世界遺産宮原坑見学（子どもガイド）	
	12:40-13:50	昼食	
	14:00-14:30	三池港見学	
	14:30-16:00	大牟田市石炭産業科学館見学	
	16:00	福岡へ向けて出発	
	17:05	ホテル着、チェックイン、夕食（各自）	
11/10(土)	午前中	自由時間、チェックアウト、昼食（各自）	
	12:30	ホテル発	
	13:00	福岡空港国際線ターミナル着	
	15:10	福岡空港発-北京首都国際空港（CA954）	

【文部科学省講義担当】

文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課国際企画調整室　係長 神定　舞

参加者リスト

No.	氏名	所属	職名	役割
A-01	姜瑾	教育部基礎教育司	副司長	団長
A-02	石建平	河北省教育庁	処長	副団長
A-03	王紅葉	教育部基礎教育司	副処級	秘書長
A-04	焦江方	教育部教師工作司	正処級	
A-05	童春林	教育部教師工作司	副処級	
A-06	賀君巧	石家庄市第二中学校	副校長	
A-07	孫暁君	石家庄市盛世長安小学校	校長	
A-08	白東岭	河北景県中学校	校長	
A-09	孫華君	河北師範大学附属中学校	副校長	
A-10	李亜楠	石家庄市第四十中学校	副校長	
A-11	孫寧	河北保定師範附属学校	副校長	
A-12	雷玲	西安交通大学附属小学校	校長	
A-13	郭涛	西北大学附属中学校	徳育主任	
A-14	張羽	西安高新第一中学校	人事	
A-15	張輝	陝西師範大学附属中学校	事務課主任	
A-16	呂鐸	陝西省西安中学校	高二学年主任	
A-17	遊麗芳	陝西省西安師範附属小学校	教師	
A-18	肖苗	西安市鉄一中学校	行政管理教師	
A-19	潘慧琴	蘭州市教育局	副局長	
A-20	滕建军	蘭州市盲聾唖学校	教師	
A-21	楊富毅	北京第二実験小学校蘭州分校	副校長	
A-22	張燕	甘粛衛生職業学院	教務処処長	
A-23	張永国	天水市第一中学校	学生処副主任	
A-24	宋光禎	西北師範大学附属中学校	学生処主任	
A-25	賈小梅	甘粛省蘭州実験小学校	教頭	

プログラム関係機関

（1）全体プログラム

① 文部科学省 大臣官房国際課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
Tel: 03-6734-3046　Fax: 03-6734-3669　URL: http://www.mext.go.jp/en/

奈良　哲
Mr. NARA Satoshi
文部科学省　大臣官房国際課　課長

② 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F
Tel: 03-5577-2853　Fax: 03-5577-2854
Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp　URL: http://www.accu.or.jp

田村　哲夫
Mr. TAMURA Tetsuo
理事長

進藤　由美
Ms. SHINDO Yumi
国際教育交流部長

伊藤　妙恵
Ms. ITO Tae
国際教育交流部プログラムスペシャリスト
（本プログラム主担当）

藤澤　弥生
Ms. FUJISAWA Yayoi
国際教育交流部事務専門員

高松　彩乃
Ms. TAKAMATSU Ayano
国際教育交流部プログラムスペシャリスト

白 璟燁
Ms. BAI Jingye
プロジェクトスタッフ

韋 佳慧
Ms. WEI Jiahui
プロジェクトスタッフ

曹 晨晨
Ms. CAO Chenchen
プロジェクトスタッフ

③ 中華人民共和国教育部国際協力交流局アジア・アフリカ課

100-816 中国北京市西単大木仓胡同 37 号
Tel: +86-10-6609-6524

④ 中華人民共和国駐日本国大使館 教育部

〒135-0023 東京都江東区平野 2-2-9
Tel: 03-3643-0305　Fax: 03-3643-0296

⑤ 中華人民共和国駐福岡総領事館 教育室

〒810-0065 福岡県福岡市中央区地行浜 1-3-3
Tel: 092-713-1121　Fax: 092-781-8906

(2) 地域受入プログラム

大牟田市教育委員会

〒836-8666 大牟田市有明町 2-3
Tel: 0944-41-2861　Fax: 0944-41-2862
URL: http://www.city.omuta.lg.jp/kyouiku/

安田　昌則
Mr. YASUDA Masanori
教育長

大迫　孝博
Mr. OSAKO Takahiro
事務局 事務局長

荒木　秀敏
Mr. ARAKI Hidetoshi
学校教育課 指導室 室長

中村　敏明
Mr. NAKAMURA Toshiaki
学校教育課 指導室 指導主事

高倉　洋美
Ms. TAKAKURA Nadami
事務局 総務課 教育みらい創造室 指導主事

（3）訪問校

学校法人 自由学園

〒203-8521 東京都東久留米市学園町 1-8-15
Tel: 042-428-3636　Fax: 042-422-3115
URL: http://www.jiyu.ac.jp

高橋　和也	菅野　広樹
Mr. TAKAHASHI Kazuya	Mr. KANNO Hiroki
学園長	教諭

大牟田市立明治小学校

〒836-0012 福岡県大牟田市明治町 2-21-1
Tel: 0944-53-6017　Fax: 0944-59-0859
URL: http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

宮下　哲夫	宮﨑　紀子
Mr. MIYASHITA Tetsuo	Ms. MIYAZAKI Noriko
校長	主幹教諭

大牟田市立宮原中学校

〒836-0881 大牟田市米生町 2 丁目 26 番地
Tel: 0944-53-6032　Fax: 0944-57-7094
URL: http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/miyanohara-jh/

野田　環紀	鶴田　裕二
Ms. NODA Tamaki	Mr. TSURUTA Yuji
校長	教頭

福岡県立三池高等学校

〒837-0917 福岡県大牟田市大字草木 245
Tel: 0944-53-2172　Fax: 0944-52-2572
URL: http://miike.fku.ed.jp

西田　智	中島　敦雄
Mr. NISHIDA Satoshi	Mr. NAKASHIMA Atsuo
校長	教頭

２．実施内容・訪問記録

1．全体プログラム（東京）

11 月 4 日（日）午後① オリエンテーション

団長・姜瑾氏（教育部基礎教育司副司長）、および副団長・石建平氏（河北省教育庁処長）率いる 25 名の訪問団は 2018 年 11 月 4 日（日）に来日した。訪問団は到着した羽田空港内で昼食をとった後、東京都のホテルフクラシア晴海に移動し、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）によるオリエンテーションを受けた。オリエンテーションでは、プログラム日程の説明、滞在中の注意事項の説明、ACCU スタッフの紹介等があった。

11 月 4 日（日）午後② 開会式・歓迎交流会

同日夕方、ホテルフクラシア晴海にて開会式・歓迎交流会が行われた。初めに、文部科学省大臣官房国際課の奈良哲氏、中華人民共和国駐日本大使館の胡志平氏、中国教職員訪問団団長の姜瑾氏からそれぞれ挨拶があった。文部科学省の奈良氏は、当事業が日中国交正常化 30 周年を迎えた 2002 年に始まり、今までに 1,600 名を超える中国教職員が参加した事に触れ、両国関係を発展させるためには教育等の分野で対話と交流を積み重ねて相互理解を深めていくことが重要であり、訪問団には今回の滞在で見た日本の姿について子ども達に伝えていただきたいと述べた。また、中国大使館の胡氏は中国国務院総理の日本訪問および安倍首相の 7 年ぶりの中国訪問による日中関係正常化への動き、そしてそれによる「2019 年日中青少年交流促進年」での 3 万人規模の青少年の両国訪問計画に触れ、長期的な友好関係を築くための国際交流の重要性について語った。

挨拶の後は、文部科学省の奈良氏と団長姜氏、および ACCU の田村理事長と団長姜氏の間で記念品が交換され、その後 ACCU の三木理事の乾杯の音頭で食事と歓談が始まった。そして最後に、田村理事長による閉会の挨拶で開会式・歓迎交流会は締めくくられた。

開会式・歓迎交流会には、過去の中国派遣プログラム参加者の日本人教職員も参加した

11 月 5 日（月）午前 文部科学省表敬訪問

正面玄関前での記念撮影

文部科学省 寺島史朗氏のあいさつ

文部科学省の表敬訪問では、始めに大臣官房国際課国際戦略企画室室長の寺島史朗氏が挨拶をし、訪問団には今回のプログラムを通じて日本社会や文化に関して理解を深め、帰国後はそれぞれの学校で紹介し、中国と日本の交流の架け橋になっていただくことを期待している旨を述べた。

続いて、初等中等教育局国際企画調整室・神定舞氏より日本の初等中等教育の概要に関する講義が行われ、学校体系、義務教育制度、教育行政における国・都道府県・市町村の役割分担、教育委員会制度の仕組みと趣旨、日本の教育の特徴等について説明があった。また、学習指導要領の変遷についての説明があり、現行の学習指導要領の理念として「学力の三要素」と「生きる力」について触れたほか、日本の特別支援教育に関する概要の説明も行われた。

Q&A（抜粋）

Q：学習指導要領の改訂で「生きる力」が強調されたとのことだったが、これに基づいた教育の質はどのように保証されるのか？各学校での評価制度はあるのか？
A：設置者である教育委員会に学校運営の責任があるため、評価は設置者が行っている。国の役割としては学習指導要領の改訂の際には、どのような力を身につけさせたいかといった理念について、各都道府県の教育委員会を対象に研修を行っている。

Q：中央政府は教育の実施結果や教育の質保証に関する確認は行っていないのか？
A：基本的には設置者である教育委員会の責任となっているので、中央政府としては学習指導要領や解説書を発行しているが、中央政府が各学校を直接評価することはない。

Q：障害児に対して政府からの特別な教育プログラムや補助金などの支援はあるか？
A：特別支援学校、特別支援学級、通級による指導で、それぞれの教育課程や学級サイズを編成している。特に最近は、医療的ケアを必要とする重い障害を持った障害児への支援を充実させており、学校に看護師を常駐させるための費用補助を行っている。

Q：生徒一人当たりのコストについて、障害児と健常児は比較してどのくらい違うか？
A：この場ですぐに具体的にいくらとは答えられないが、健常児は 40 人に 1 人の教師が付くのに対して、特別支援学級の生徒には 8 人に 1 人の教師が付いている。

11 月 5 日（月）午後 学校法人自由学園訪問

訪問スケジュール

12:40 -13:05　昼食
13:25 -13:40　授業見学
13:45 -14:35　挨拶、学校概要説明
14:40 -15:10　施設見学
15:25 -16:30　生徒・教員との交流会
16:30 -17:00　訪問団の情報共有会
17:00 -17:30　初等部見学

日本の教員との交流会

学校の特色、特記事項

創立者はジャーナリストで、キリスト教を土台とした学校であり、①自ら学び、考え、主体的に行動する力、②よい社会を創るための総合的な「知性」、③自分の生き方や判断の軸となる価値観を挙げている。

「生活即教育」という理念のもと独自の学びを実践しており、訪問時の学校説明では生徒による学校生活運営、日々の食事の自炊、食べ物の栽培・調理・片付けまでをサイクルで行う食育、生徒が育てた木を使った校舎建設などの環境教育、国際理解教育、震災時のボランティア活動、LGBT などの多様性理解教育、など様々な特色ある取り組みが紹介された。また、同校に留学している中国人留学生のガイドによる施設見学、昼食交流、ディスカッションが行われ、訪問団は中国人の生徒を通して、日本の学校生活や同校の様々な取り組みについて知る機会となった。

Q&A（抜粋）

Q: キャリア教育についてどう対応しているか？
A: 進路指導に関しては、通常の学校で行われている①良い職場・良い大学に入れるための支援（今ある社会を前提とする教育）だけでなく、②生き方を創っていく・生き方を考えるための進路指導（社会創造のための教育）という 2 つのアプローチで行っている。

Q: 貴校の教育は生活に関わる部分が多いようだが、評価はどのように行うのか？
A: 生活に関しての評価はなく、試験、授業中の発言・態度、宿題などを評価する。

Q: 寮ではネットや携帯が使えないと聞いたが本当か？
A: 寮にはインターネットが使えるパソコンがあり、生徒は順番で使っている。携帯の使用可否は生徒の自治で決めているため学年によって異なるが、1 年生に関しては携帯を持たない／必要がないということを生徒自身が決めた。

Q: 男子部・女子部が分かれていることや普段の交流についても聞きたい。
A: 女子校として始まり、途中から男子部が作られた。現在はそれぞれの良さを引き継いで学校運営をしていて、寮もそれぞれある。クラスも男女別。エリアがそもそも分かれている。普段の交流は、部活動を通じた交流があるが、基本的には大きな行事を一緒に行う。例えば、コーラス、体操会、ボランティアなどである。全体的な交流というよりは所々で交流がある。

2. 地域受入れプログラム（福岡県大牟田市）

11 月 6 日（火）から 11 月 9 日（金）までの 4 日間、訪問団は福岡県大牟田市教育委員会の受入れにより、大牟田市内の小学校、中学校、高校、教育文化施設を訪問した。大牟田市は県の最南端に位置し、海と山々に囲まれた自然環境豊かな地域であり、市内には「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に認定された三池炭鉱関連資産がある。2012 年 1 月に市内の全ての小・中・特別支援学校が一斉にユネスコスクールに加盟し、各学校の特色を生かした ESD を推進し、持続可能な大牟田市のまちづくりに向けた取組を行っている。

11 月 6 日（火）午後① 大牟田市教育委員会 オリエンテーション

大牟田市教育委員会指導室室長荒木秀敏氏のあいさつにはじまり、同委員会指導室指導主事中村敏明氏より大牟田市の説明があった。当地の地理・歴史・世界文化遺産・文化・人口減少や高齢化の現状を背景に、持続可能な社会づくりを推進し、その一翼を担うのが、市全体で取り組んでいる ESD である。また、特色ある ESD 活動として、小学 5 年生の植樹活動、国内外の交流活動、子ども民生委員活動等も紹介された。

Q&A（抜粋）

Q: 具体的な数字でなくてよいので、予算の大まかな流れが知りたい。
A: 大牟田市は約 20 年前に閉山し、人口が減少したことにより税収も減ってしまい、財政が厳しい状況である。しかし、ESD 本部長でもある市長は教育に高い関心を持っており、厳しい財政の中でも教育に予算をつけている。また、大牟田市の取り組みは文部科学省にも認められ、助成金等の援助がある。

Q: 文部科学省にて教育行政の国・都道府県・市町村の役割分担や教職員給与の負担に関する説明を受けたが、大牟田市が教育に支出するのは何に対してであるか。
A: 大牟田市立の学校設備、例えばエアコン設置、校舎の補修は市が負担している。

Q: 日本では人工知能、AI の発展が非常に世界をリードしていると思うが、小学校・中学校の段階で人工知能に関する教育はしているか？
A: AI を直接用いた授業は実際していない。ただ、ICT 機器の教育効果は高いので、各校で活用しながら教育の効果を図っている。現在は移行期で、再来年度から実施される新学習指導要領では、プログラミングの考えを教育に取り入れることが決定している。

Q: 人口の高齢化が進んでいるが、高齢者をケアする人材はどういったルートで育成されるのか。国内で高齢者のケアをする人を日本では受け入れたりしているのか？
A: どういった過程を経て職業に就くという質問には正確に答えられないが、高等学校、専門学校、大学で学びながらその分野の職に就くということを把握している。小学校・中学校の段階では、高齢者をお世話するのではなく、すばらしい知恵をもっている高齢者から学び、共に生きていくという考え方を学習を通して身に付けられるようにしている。

11 月 6 日（火）午後② 大牟田市市長表敬訪問

オリエンテーションに引き続き、訪問団は市長を表敬訪問した。当日は副市長である甲斐茂利氏が代わりに対応した。大牟田市側の他の出席者は、教育委員会教育長安田昌則氏、同委員会事務局長大迫孝博氏、同委員会学校教育課課長平河良氏、同委員会学校教育課指導室長荒木秀敏氏であった。副市長の甲斐氏からは、歓迎の言葉と併せて、大牟田市が注目されている 3 つの点が挙げられた。一つは動物福祉に力をいれている動物園。二つ目は認知症の方を見守る「まち」であること。三つ目は ESD に対する取り組みである。前年に市制施行 100 周年を迎え、これからの 100 年を見据えたまちづくりを推進する中で、次世代の人材育成、教育の充実を図っていることが述べられた。

副市長 甲斐茂利氏のあいさつ

記念品交換（左・訪問団団長と右・副市長）

11 月 6 日（火）午後③ 大牟田市教育委員会 歓迎交流会

夕方、訪問団は甲斐副市長、安田教育長をはじめ、教育委員会の教育委員や訪問予定の学校長や教頭を含む教職員と交流を深めた。コミュニケーションはスマートフォンの翻訳アプリが補い、各人が楽しく会話した。

訪問団団長のあいさつ

左・安田昌則教育長と右・訪問団団長

訪問団と日本教職員の交流

左・中村指導主事と右・甲斐副市長
訪問団からの贈り物を披露

11 月 7 日（水）大牟田市立明治小学校訪問

訪問スケジュール

09:30	鼓笛隊による歓迎演奏
09:30-10:30	挨拶、学校概要説明
10:45-12:20	授業見学
12:20-13:05	生徒との昼食交流
13:50-14:05	掃除の見学
14:10-14:50	生徒との文化交流
15:45-16:30	日本人教師との交流会

市役所の出前授業「みどりの教室」の見学

学校の特色、特記事項

2012 年にユネスコスクールに加盟した同校は、エネルギー環境教育を中心とした ESD や英語教育が盛んで、2008 年からは中国と環境教育での交流を行っており研修員の視察受け入れや専門家の派遣も行っている。

訪問団は通常の授業を見学するほか、学校の隣の公園で行われていた大牟田市役所の出前授業である「みどりの教室」（環境教育）を見学した。訪問団と生徒との文化交流の授業では、日本の生徒からは大牟田市の紹介や環境問題についての発表があり、訪問団からは中国各地の名所や中国文化の紹介がされた。また、訪問中には訪問団が生徒と交流する場面が多くあり、給食の時間には訪問団が各学級に分かれて生徒と一緒に給食を食べ、昼休みには生徒に手を引かれて校庭で一緒に遊び、英語の授業では英語の歌にのせて訪問団が生徒とじゃんけんをしたり、習字の授業では生徒が書いた書を訪問団にプレゼントするというような光景が見られた。

Q&A（抜粋）

Q: 特別な支援が必要な子供に対してどのような形で支援を行っているのか？
A: 本校には特別支援学級はないが、通常学級において特別教育支援員が特別な支援を必要とする生徒に付いてケアをしている。

Q: 家庭科の授業では地域住民の方がいたようだが詳細が知りたい。
A: 地域住民の方には、ミシンボランティア・読書ボランティア・民生委員として学校に来ていただいている。ボランティアは学校が独自に募集しており、ミシンボランティアに関しては、1 回の授業につき 20 人くらいの方に、1 学期間に 3 回程来てもらっている。

Q: 保護者会はあるか？
A: PTA がある。各学年、年に 1 回 PTA で保護者と生徒で学ぶ「親子学習会」を行っており、専門家を呼んでネットモラルや食育などについて学ぶ会を設けている。

Q: 良い習慣づくりに関して良い経験があれば、教えてほしい。
A: クラスで何か問題があれば、みんなで話し合いをし、みんなで解決するようにしている。1 年生のときに習慣づけることが大切だと考えている。また、1～6 年の中で、6 年生が模範となり、児童会で学んだり、縦のつながりで学ぶこともある。

11 月 8 日（木）午前 大牟田市立宮之原中学校訪問

訪問スケジュール

09:10-09:45　挨拶、学校概要説明
09:55-10:45　授業見学
10:55-11:30　生徒との交流会
11:30-11:50　質疑応答

生徒との交流会で中国民謡を歌う訪問団

学校の特色、特記事項

同校は世界遺産・宮原坑が校区内にあり、世界遺産学習をはじめとする ESD を行うほか、幼稚園・保育園・小学校・特別支援学校・高齢者施設等との交流を行っており、世界的な視野を持ち地域で活躍する子どもたちを育成している。

訪問団は、国語・英語・化学・社会・美術・特別支援学級など、様々な授業を見学した。訪問団と生徒との交流会では、日本の生徒からは剣道の実演と合唱が披露され、訪問団からは中国民謡の『茉莉花』の歌が贈られた。その後、生徒と訪問団の間で Q&A タイムがあり、「中国で有名な日本人は誰か」や「中国の中学生がするスポーツは何か」などの質問がされ、訪問団と生徒の間での交流が行われた。

Q&A（抜粋）

Q：総合的な学習の時間の内容と時間はどうなっているのか？
A：本校では、内容は世界遺産学習と福祉学習の二本柱で行っており、通常の教室での授業と体験学習を組み合わせて行っている。時間数は、1 年生で年間に 50 コマ／時間、2-3 年生では年間に 70 コマ／時間である。

Q：キャリア教育はどのように行っているか？
A：キャリア教育は 3 年間行っており、1 年次はどのような職業があるのかを調べたりインタビューをする。2 年次は職場体験学習、3 年次は面接の練習を行っている。

Q：特別支援教育支援員が 2 名いるが、何名の生徒に対して配置されているのか。
A：本校には特別支援学級があり、4 名の生徒がいる。2 名の特別支援教育支援員は普通学級に入り、必要に応じて生徒の支援を行っている。

Q：教職員のうち、6 名が外部からということであるが、この方々の給与はどこから支出されるのか。そして、どのような方なのか。また、この学校の仕事だけをするのか。
A: 外部の方には様々な方がおり、主に市が雇っている。カウンセラーは県の予算である。

Q: 11 あるクラブ活動の中に、ボランティアや同好会があるが、これらに関わる人数と学年は同じか違うのか、どのような活動をしているのか。
A: 人数は約 20 人。違う学年で構成されている。地域の行事に参加したり、古着の回収等の活動を行う。

11 月 8 日（木）午後 福岡県立三池高等学校訪問

訪問スケジュール

12:30-13:15　昼食
13:30-14:20　授業見学
14:30-16:00　挨拶、学校説明、質疑応答
16:00-16:50　訪問団の情報共有会

邦楽部による琴の合奏を鑑賞する訪問団

学校の特色、特記事項

2017 年に創立 100 周年を迎え、大牟田市を中心とする県南地域はもとより全国・世界に貢献するリーダーを輩出してきた伝統校。高潔闊達な人格の形成を図るとともに、幅広い知識・教養と強靱な体力を身に付けさせ、高い志をもって自らの力で未来を切り拓く人間を育成している。部活動への加入率が高く、11 の文化系クラブと 11 の運動系クラブがあり、「文武両道」を目標に掲げている。

訪問団は様々な授業を見学するほか、全国大会にも出場した邦楽部による琴の合奏を鑑賞した。その後の質疑応答の時間では、校長先生や教頭先生を始め、教務担当・進路指導担当・生徒指導担当・研修担当・保健担当など様々な分野の日本人の先生方に参加いただき、訪問団との間で下記のような様々な質問・議論が交わされた。

Q&A（抜粋）

Q：部活動の顧問は全て貴校の教師が担当するのか？専門性が必要なものは外部の人か？
A：基本的には本校の教師が顧問を務めている。ただし、特例として弓道・華道・茶道・吹奏楽・邦楽については外部の方に委託している。

Q：中国では部活動で優秀な成績を収めると有名大学に進学できるが、日本でも同じか？そのために生徒は部活動に積極的なのか？
A：大学によっては全国大会に出場した生徒だけしか受けられない特別な推薦枠があるところもある。ただ、そのために部活動に励んでいる訳ではなく、あくまでも文武両道という考え。

Q：大学への進学率が高いか低いかによって社会的な評価や保護者が学校を見る目は変わるか？進学率に関して学校はプレッシャーを感じるか？
A：県教育委員会等からのプレッシャーはないが、進学実績を見てご意見を持つ保護者や住民の方はいて、進路指導担当として個人的にはプレッシャーは感じる。ただし、生徒に難関大学に合格して欲しいという気持ちはあるものの、本校では生徒個人の意見を尊重する進路指導をしており、一人一人の資質を最大限に伸ばすことを重視している。

Q：でも進学率が下がったらどうするのか？保護者からのプレッシャーがあるのでは？
A：仮に進学率が下がることがあったとしても、一人一人の持っている能力を最大限に伸ばそうという私達の取り組みには何ら変わりはない。プレッシャーを感じなくなったら学校として期待されていないということなので、プレッシャーはプラスのエネルギーに変えていく。

11 月 9 日（金）午前 報告会・閉会式

プログラム最終日の 11 月 9 日、ホテルニューガイアオームタガーデンにて報告会および閉会式が行われた。出席者は、文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長・寺島史朗氏、中華人民共和国駐福岡総領事館から教育室室長領事・張映川氏および領事・秦衛東氏が出席したほか、大牟田市教育委員会から大牟田市教育委員会事務局事務局長・大迫孝博氏、学校教育課課長・平河良氏、学校教育課指導室室長・荒木秀敏氏、事務局総務課教育みらい創造室・指導主事・高倉洋美氏が出席した。また、今回訪問した学校から、学校法人自由学園男子部教諭・菅野広樹氏、大牟田市立明治小学校校長・宮下哲夫氏、大牟田市立宮原中学校校長・野田環紀氏、福岡県立三池高等学校校長・西田智氏が出席した。

報告会では、訪問団の副団長である石建平氏から1週間のプログラムについて、訪問の内容、訪問の成果、所感という流れで報告が行われた。訪問の成果として、①日中両国の交流を促進し両国の教育界、特に初等中等教育における理解を深めたこと、②日本の児童生徒・学校・国家を直に感じ、日本の伝統文化や暮らしなどを体感できたこと、③初等中等教育制度の現状、理念そして教授法に関して理解を深めることが挙げられた。さらに、所感としては6つの点が示された：①学生の道徳教育を重視し、教授法も非常に有効的であること、②教養教育を重視し、実践的で効率的であること、③バランスよく発展するための教育環境、④実践において、独特なカリキュラムで、重要な能力を育成すること、⑤鮮明な学校文化、伝承と創造を重要視し、民族性とグローバル性を融合していること、⑥多元的な教育保障体制、各方面の力を連携して教育環境を作り出していること。訪問団は日本の道徳教育、教養教育、基礎教育の公平性、地域との連携、中央政府と地方自治体の教育における役割分担に特に着目した。石氏による報告の後は、訪問団を受け入れた大牟田市教育委員会や訪問校からそれぞれ感想やコメントが述べられた。

続いて行われた閉会式では、初めにACCUの進藤部長、文部科学省の寺島氏、中華人民共和国駐福岡総領事館の張氏、訪問団団長の姜氏からそれぞれ挨拶が述べられた。寺島氏は、中学生の時の国際交流の経験や自身の中国へ訪れた時の経験に触れ、訪問団が帰国後に日本の教育や文化について中国の生徒に伝えることは両国の友好促進に極めて有益であり、今回をきっかけにお互いの相互理解が深まり将来的には教員間や学校間の交流につながれば幸いであると述べた。そして、訪問団の来日は日本の教師や生徒にとっても、異なる文化や異なる視点の教育に触れることができるまたとない貴重な機会であったとして感謝の意を述べた。中華人民共和国駐福岡総領事館・張氏は、今回訪問した九州は中国と地理的にも近く歴史的な繋がりが最も長い地域であり、習慣や食生活では共通点が多いということについて触れた。また、今年は中日平和友好条約締結40周年であり、李克強総理の来日と安倍晋三首相の訪中により中日関係の正常化に拍車がかかり、各領域・各レベルでの中日の交流と協力が増しており、新たな歴史的発展の機会を迎えていると述べた。

プログラムの報告をする副団長の石氏

挨拶を述べる駐福岡総領事館の張氏

11 月 9 日（金）午後① 宮原坑見学

閉会式の後、訪問団は市内にある世界遺産「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産である宮原坑を見学した。宮原坑は 1898 年から 1931 年まで操業していた炭鉱で、年間 40～50 万トンの石炭を出炭し、日本の近代化を支えた施設である。現在でも、竪坑施設、レンガ造巻揚機室、日本最古の鋼鉄製櫓が閉山当時のまま保存されている貴重な炭鉱遺構である。宮原坑では、毎月第 3 日曜日に地域の小学生が施設を案内する「子どもボランティアガイド」があり、訪問当日は特別に訪問団に対して大牟田市立駛馬小学校の児童が務めた。

子どもボランティアガイドによる施設の説明

11 月 9 日（金）午後② 三池港見学

大牟田市世界遺産文化財室の方によるガイド

訪問団はもう一つの世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産である三池港を見学した。三池港は日本で唯一の閘門式の港であり、当時は石炭の海外輸出で活躍し、三池炭鉱躍進の一翼を担った。訪問当日は大牟田市企画総務部世界遺産･文化財室 中村渉氏が訪問団を案内、説明した。

11 月 9 日（金）午後③ 石炭産業科学館見学

大牟田市のキャラクターも一緒に記念撮影

日本の近代化に貢献した石炭や石炭産業について資料の収集・調査、展示、講演会の開催等を行っている科学館である。訪問団は、三池炭鉱に関する展示やエネルギーを学ぶ体験コーナーを見学したほか、坑内の採炭現場を再現した模擬坑道も体験した。最後には、大牟田市の公式キャラクター「ジャー坊」が中国に帰国する訪問団の見送りに来てくれた。

３．参加者アンケート

参加者アンケート

＜目的＞

平成 30 年度初等中等教職員国際交流事業「中国教職員招へいプログラム」に参加した中国教職員から本プログラムに対する意見を聞き、今後のプログラム計画・運営の参考にするため、実施するものである。

＜アンケート調査＞

○調査時期：2018 年 11 月

○調査対象：平成 30 年度初等中等教職員国際交流事業「中国教職員招へいプログラム」に参加した中国教職員 25 人

○調査方法：2018 年 11 月 4 日（日）のオリエンテーション時にアンケート用紙を対象者 25 人に配付し、11 月 10 日（土）午前中に参加者 25 人より回収した。

○回収結果：配付した 25 人全員から回収した（回収率 100%）

＜調査内容＞

○プログラムの満足度

○プログラムへの参加目的

○プログラムを通じた成果

○プログラムにおける有意義な活動

○日本の教育に対する関心・理解の変化

○日本の全体的な印象の変化

○帰国後の活動・交流

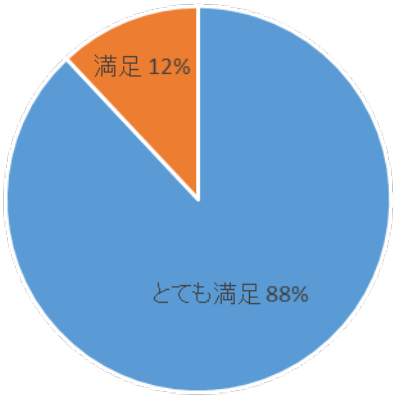
○今後の継続的な交流

○その他（改善点や意見・要望等）

◎掲載にあたり、理由・意見等の記述部分はランダムに 4 人分を抽出した。（原文は中国語）

◆質問 1．全体的な満足度

（アンケート有効数：25）



A-8 白東岭（とても満足）

おもてなしは情熱的で、スケジュールは行き届いています。交流が十分でき、理解を深めました。

A-21 楊富毅（とても満足）

今回のプログラムの日程はすごく緻密で、日本基礎教育の教育教学活動に参加し、基本基礎教育の人間本位の理念を感じました、勉強すべきところがいっぱいあります。

A-23 張永国（とても満足）

日本の教育政策について一定の理解を得ました。日本の教育は実践的なものを重視し、生徒の生活能力の育成を重視しています。主催側と訪問校は緻密な日程を手配してくれました。

A-24 宋光禎（とても満足）

プログラムスケジュールは緻密で行き届いていて、深く考察することができ、交流も充分できました。収穫が多くて感慨深いです。

◆質問 2．参加目的

（アンケート有効数：25）

A-1 姜瑾

1. 日本基礎教育の基本状況への理解を深め、よいやり方を学ぶこと。
2. 中日両国の基礎教育の交流を通じて、協力交流を深めること。

A-7 孫暁君

今回の訪問を通じ、日本基礎教育の特色、長所を知ることができ、青少年間の繋がりを培うことで、青少年間の友情や相互学習を深めること。

A-22 張燕

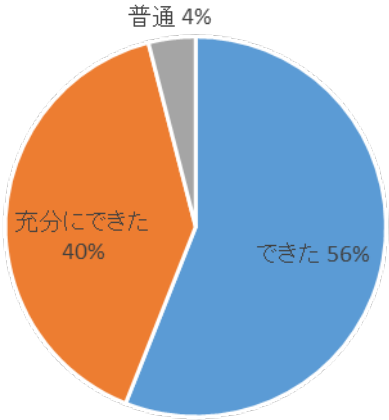
訪問を通じ、基礎教育経験を交流すること。

A-25 賈小梅

1. 両国の友好を深める。
2. 日本基礎教育のカリキュラム設置状況を知る。
3. 日本の生徒育成と人材育成における先進経験を学ぶ。

◆質問 3．目的は達成できたか

（アンケート有効数：25）



A-7 孫暁君（できた）
プログラムを通じ、日本基礎教育の実践重視を知ることができました。また日本の教育のバランスのとれた発展に対する重視も感じ、これからは各学校の校長先生と連絡を取るようにしたいと思います。

A-13 郭涛（充分にできた）
交流を通じ、実際に学校へ足を運んだことにより、バランスのよい日本の基礎教育発展を感じます。

A-20 滕建军（できた）
教職員間の交流の効果は顕著です。

A-22 張燕（できた）
中国教職員は文部科学省、大牟田市教育委員会、小学校、中学校や高校を訪問することで、キャンパスのハードウェアや施設を見学し、授業現場に入り、現場にいる先生と深く交流が出来、訪問、交流の目的は達成しました。

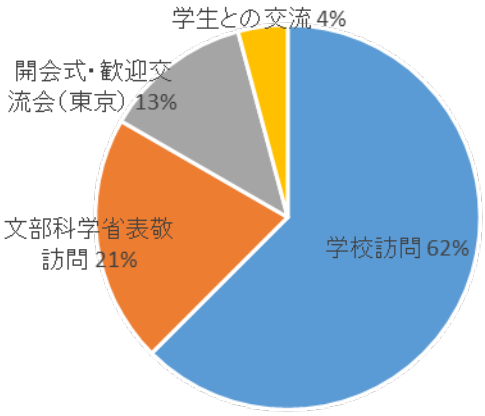
◆質問 4．当初の目的以外、このプログラムから得られたものがあればお書きください
（アンケート有効数：24）

A-2 石建平
中日間の友好交流を深めることができました。

A-6 賀君巧
日本に訪問したのは今回で二回目です。12 年ぶりの日本を訪ねることで、日本の変化を感じました。

A-11 孫寧
1. ESD プログラム
2. 日本の食育活動、総合学習は学ぶべきだ。
A-12 雷玲
教育委員会管轄内における学校間のバランスよい発展は顕著です。

◆質問 5-1．最も有意義な活動は何であったか
（アンケート有効数：24）



A-3 王紅葉（学校訪問）
教師及び生徒との交流は、より直接的・具体的であるため。

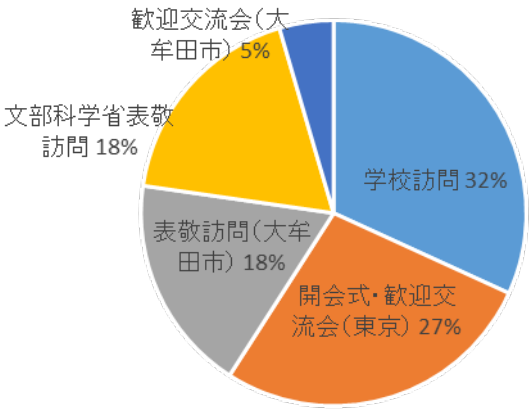
A-10 李亜楠（東京での開会式・歓迎交流会）
時間的に合理的で、訪問校での授業類型とその内容は豊富であったから。

A-12 雷玲（文部科学省表敬訪問）
日本の教育への認識を深めたため。

A-25 賈小梅（学校訪問）
明治小学校での生徒と一緒に食事をすることと大掃除をすること。自ら生徒の中に入り、ランチタイムで交流をし、生徒の熱情と明るさを感じました。生徒の節約やエコ意識が強く、一緒に掃除をする時、まるで自分も子ども時代に帰ったようでした。

◆質問 5-2．二番目に有意義な活動は何であったか

（アンケート有効数：22）



A-5 童春林（東京 開会式・歓迎交流会）
プログラムのスケジュールについて詳しく知ることができました。各中小学校の教師と交流し、相互理解を深めました。

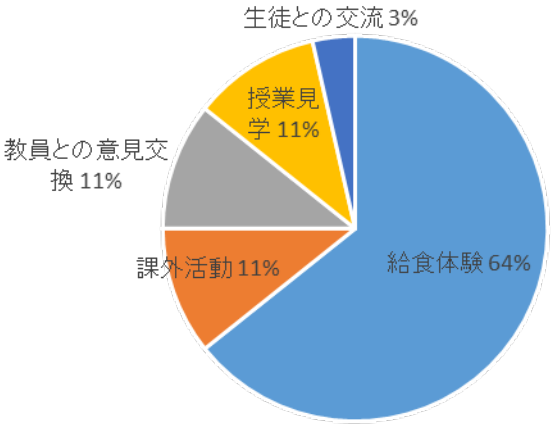
A-11 孫寧（学校訪問）
学校は文部科学省の計画が実際に実施されるところであるからです。

A-15 張輝（東京 開会式・歓迎交流会）
和気あいあいとした雰囲気の中で深く交流することができ、理解を深めました。

A-17 遊麗芳（東京 開会式・歓迎交流会）
活動の雰囲気は楽しく、深く交流し、いろんな面での理解を深めました。

◆質問 6．特に「学校訪問」について、最も有意義な活動は何であったか

（アンケート有効数：25）



A-3 王紅葉（授業見学）
授業は学校教育が行われる主要な場所だから。

A-10 李亜楠（給食体験）
生徒と一緒にお食事をすることで、身をもって日本の生徒の明るくて熱い性格を感じました。バランスよく栄養のある組み合わせの給食を食べることができ、食事をするときのエコロジー意識などを感じることができました。

A-23 張永国（給食体験）
給食体験活動では、小学生は自分で片付け、自分で綺麗にすることを通じ、日本教育において生徒の生活能力を重視していることが感じられました。節約することを大切にし、生活能力の育成方法はすごくよくて、感心しました。

A-25 賈小梅（給食体験）
1．日本の児童生徒のご飯事情を知ることができ、一緒に食事をすることで、お互いの友情を深めました。
2. 自ら片付ける力、自己管理能力が高められると感じる。
3. 節約意識、エコ意識が生活に浸透し、社会

を意識する価値観を育成していることがわかりました。

◆質問 7．プログラムの中で、他にどのような活動があったらよいか

（アンケート有効数：10）

A-7 孫暁君

1. 幼稚園での子どもの育成方法も知りたいです。

2. 小学生が自分で企画し、教師、保護者が補助する活動を見てみたいです。

A-10 李亜楠

一緒に生徒たちと参加する活動がしたいです。

A-22 張燕

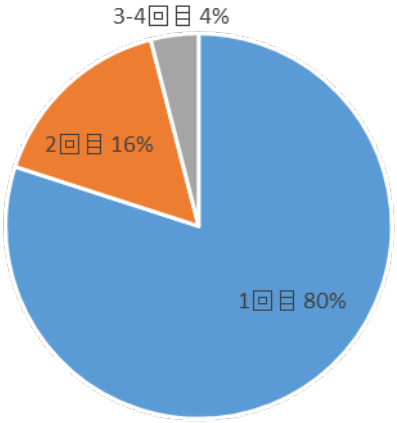
生徒たちが学校から家に帰った後の様子を知りたいです。

A-24 宋光禎

中日双方の教師が交代で授業をする内容があったらいいと思います。

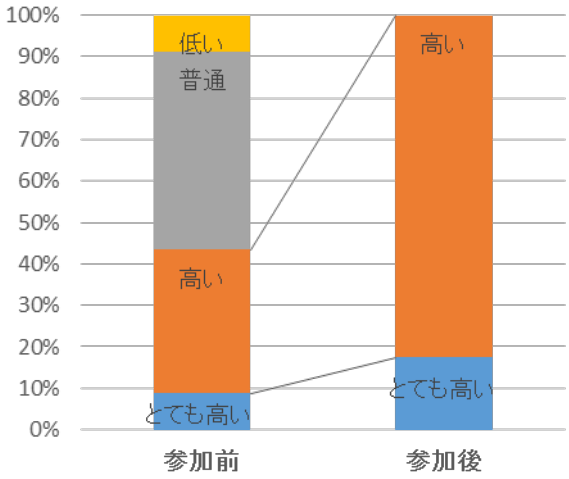
◆質問 8．来日するのは今回で何回目ですか。

（アンケート有効数：25）



◆質問 9．日本の教育全般への関心と理解度の変化

（アンケート有効数：23）



A-5 童春林（普通→高い）

参加前は紙面や友人からしか日本の教育状況を知ることができなかったが、参加後はもっと直観的で、リアルな認識を得ました。

A-9 孫華君（普通→高い）

前は教育の基本状況に概括的な理解があっただけだが、参加後はもっと具体的な理解を得て、共に中日教育に存在する問題を検討したく、これからも学びあいたいと思います。

A-21 楊富毅（とても高い→高い）

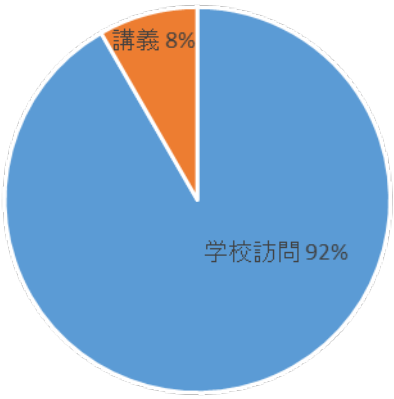
参加前はメディアや、同僚から日本教育を知り、日本基礎教育に期待していました。参加後は色々学ぶべきところがある一方、中国の基礎教育と同じような問題もあることがわかりました。

A-22 張燕（高い→高い）

参加前後とも日本教育に対する関心と理解度は高いです。

◆質問 10．日本の教育の理解に役立った項目

（アンケート有効数：24）



A-6 賀君巧（学校訪問）
講義は確かに短時間で日本教育への理解を促進するのにはいいのだが、学校訪問はもっと直接的で直観的で、身をもって体験したほうがより感慨深いです。

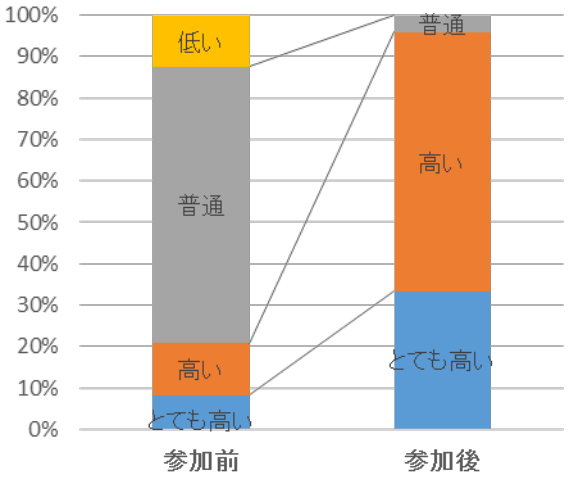
A-13 郭涛（学校訪問）
同じアジアの隣国として、文化的にすごく似ているところがあり、交流を通じ、お互い補い合い、共に発展したいと思います。

A-21 楊富毅（講義）
各教育レベルに関する講義と各教育レベルの学校訪問は、教育制度を体系的に理解するのに役立った。

A-25 賈小梅（学校訪問）
1. 学校訪問を通じ、学校の理念と目標を知ることができました。
2. 授業参観を通じ、日本の教師の授業実態を知り、自分の授業について考えさせられました。
3. 教師と生徒は交流しあい、理解を深め、友情を促進します。
4. 両国の教師の交流はお互いの認識を高めました。

◆質問 11．プログラム参加前と後の、国際理解教育や ESD（持続可能な開発のための教育）への関心や理解度について

（アンケート有効数：24）



A-11 孫寧（高い→とても高い）
持続可能な教育は国際理解教育の重要な一面である。

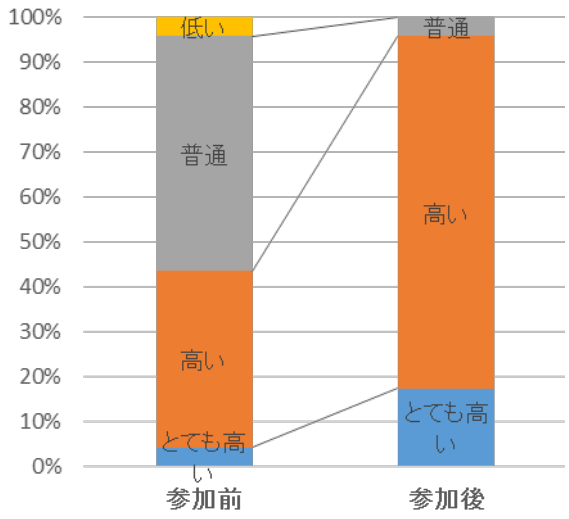
A-12 雷玲（普通→高い）
考察を通じ、ESD への理解を深めました。

A-18 肖苗（普通→高い）
たくさん交流することでこそ理解を深めることができます。

A-25 賈小梅（普通→高い）
前はあまり関心が無かったが、今回は大牟田市副市長の紹介と明治小学校、宮原中学校と三池高校の訪問を通じ、認識を深めました。

◆質問 12．プログラム参加前と後の日本に関する理解度について

（アンケート有効数：23）



A-8 白東岭（高い→高い）
変化はないです。（経済発展、文明で秩序的）

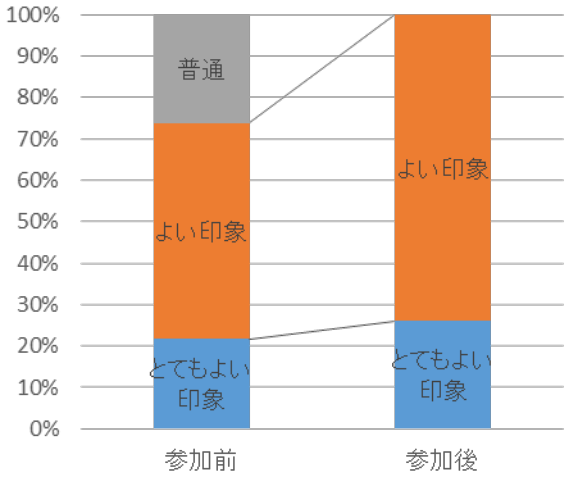
A-10 李亜楠（高い→とても高い）
日本の教育は生徒にぶれない生存能力を培う教育であると感じます。

A-22 張燕（普通→高い）
かなり変わりました。

A-23 張永国（低い→普通）
参加前は日本についてあまり知らなかったが、参加後は日本の基礎教育に対し理解を深め、国民の素質は全体的に高い印象をもちました。

◆質問 13．今回の活動を通して、日本の全体的な印象（日本人、文化と風習）はどのように変化しましたか

（アンケート有効数：23）



A-3 王紅葉（よい印象→よい印象）
礼儀正しい、勤勉。

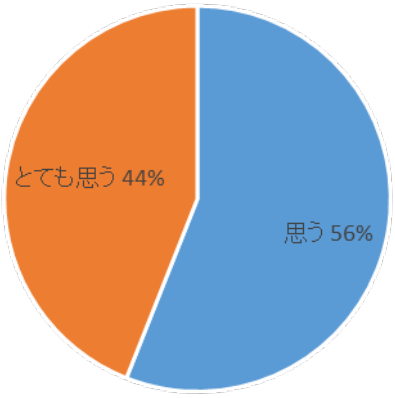
A-14 張羽（よい印象→よい印象）
情熱的で友好的である。

A-17 遊麗芳（よい印象→よい印象）
情熱的で友好的である。

A-24 宋光禎（普通→よい印象）
日本・中国とも礼儀を重視する国である。今回のプログラムに参加し、日本人の真面目さと緻密さ、飲食文化の現状について自らの目で見ることができ、日本の飲食文化を楽しむことができました。

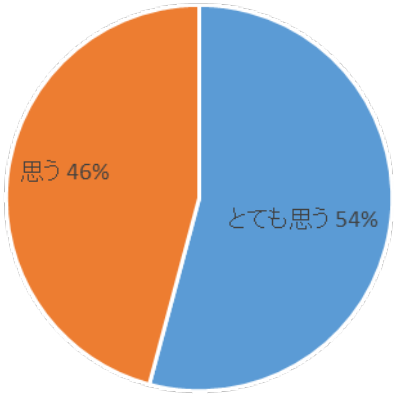
◆質問 14．日本の教育と文化について、今後更に学びたいと思いますか

（アンケート有効数：25）



◆質問 15．帰国後、あなたは今回参加したプログラムの体験を生徒や同僚に報告・共有しようと思いますか

（アンケート有効数：24）



A-1 姜瑾（とても思う）
日本のよい経験を学ぶためです。
情報共有会を開き、同僚に紹介します。またこれからの仕事の中でも関係者たちに紹介します。

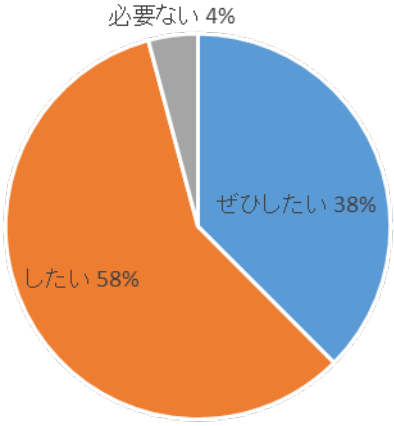
A-2 石建平（とても思う）
報告書を提出し、報告会を開きます。

A-4 張羽（思う）
みなさんに日本の教育現況と生徒の学習生活状況を見せます。

A-23 張永国（とても思う）
今回の訪問は実り多く、今回の経験を皆にシェアし、今後の教育教学活動に今回学んだいいことを取り入れたいと思います。

◆質問 16．教育現場の見学を含む日本での滞在中に見たものや体験したことを自分の教育に活用する、あるいは新たな教育活動の開拓に利用すると考えていますか

（アンケート有効数：24）



A-6 賀君巧（したい）
今後の教学活動で使える経験を活用したいと思います。

A-8 白東岭（ぜひしたい）
ごみ分別の意識、自分で掃除する意識、文明で礼儀のある感謝意識を育成したいと思います。

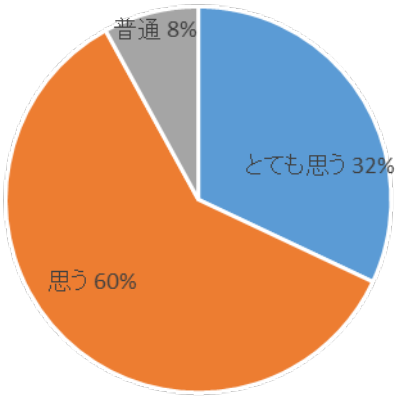
A-11 孫寧（ぜひしたい）
1. 食育活動を展開する
2. 総合学習の規範を作る

A-19 潘慧琴（したい）
見たもの、体験したものをできるだけ多くの

同僚、家族、友達に教えたいと思います。短所ではなく、長所である部分を積極的に取り入れたいです。

◆質問 17．今後、今回の日本の学校の教職員との交流を深め、継続したいと思いますか

（アンケート有効数：25）



A-1 姜瑾（とても思う）
日本の中小学校の課程の進展や成果をすごく知りたいです。これからもし両国の青少年たちが交流活動を行うなら、テーマを決めたほうがより目的がはっきりすると思います。

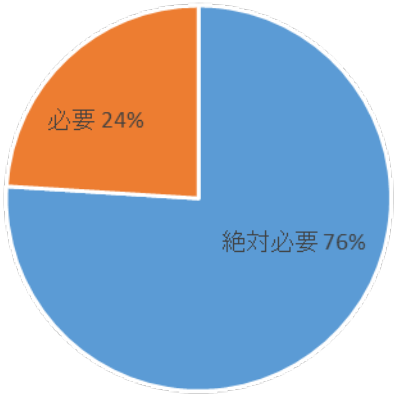
A-5 童春林（とても思う）
日本教職員との交流の時間、機会が増えることを願い、日本教職員の中国への訪問交流を歓迎しています。

A-9 孫華君（思う）
1. 日本教職員にわが校へ交流にきてもらいます。
2. 連絡を保つこと。ACCU を通じ、いくつかのイベントを行います。テーマ検討会、テーマフォーラムなど。

A-19 潘慧琴（思う）
あればいいと思いますけど、具体的な計画としては、個人で展開しようとすると難しいです。

◆質問 18．今後、中国教職員招へいプログラムの継続は必要だと思いますか

（アンケート有効数：25）



A-13 郭涛（絶対必要）
両国が共に発展するのに役立ちます。両国人民の友好往来を促進し、両国人民の友情を深めました。

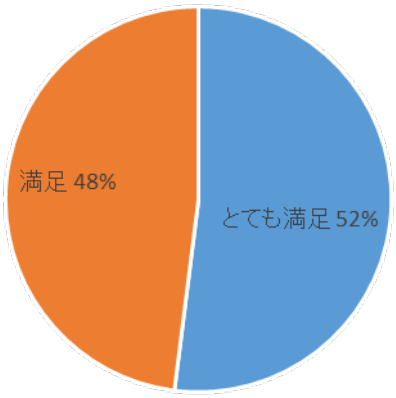
A-14 張羽（必要）
交流を深め、友好を促進します。

A-18 肖苗（必要）
交流を増やし、友好を促進します。

A-25 賈小梅（絶対必要）
1. もっと両国教師間の友情を深めることができる。
2. お互いにお互いの基礎教育発展を理解する。たとえばカリキュラムづくり、教学評価、生徒管理など。
3. 両国教師相互交流、相互促進、経験共有、共同発展。

◆質問 19．プログラム中の通訳はいかがでしたか

（アンケート有効数：25）



A-4 焦江方（満足）
通訳内容が明確でした。

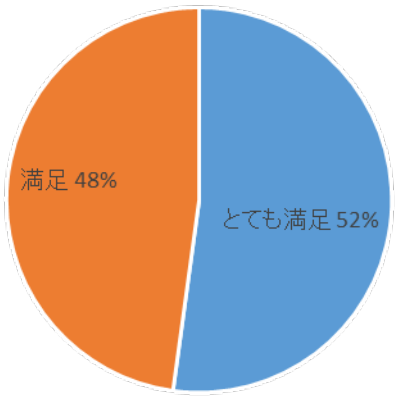
A-11 孫寧（満足）
生徒と一緒に食事をする場面を含め、全ての場面でイヤホンでの通訳があったらいいと思います。自由学園の食事の際、あまり教師と生徒の間の会話を聞き取れませんでした。

A-20 滕建军（満足）
相互交流と学習の目的を達成しました。

A-25 賈小梅（とても満足）
1. サービス意識が強く、行き届いている。
2. 翻訳は自然で流暢である。

◆質問 20．プログラム中の食事はいかがでしたか

（アンケート有効数：23）



A-6 賀君巧（満足）
手配してくれた食事もあり、自由な食事の時間も設けてくれて、自分の目で日本への理解を深めることができました。

A-7 孫暁君（とても満足）
美味しくて健康的な組み合わせが。

A-8 白東岭（とても満足）
栄養たっぷりで種類は豊富である。

A-18 肖苗（とても満足）
栄養のバランスがよかったです。

◆質問 21．その他、改善点や気づいたことがありましたら自由に書いて下さい

（アンケート有効数：11）

A-5 童春林
教育管理者、教師と生徒の交流時間を増やしたほうがいいと思います。

A-11 孫寧
すごくよかったです。友好学校の締結を促進しました。

A-21 楊富毅
交流の時間をもっと増やしたほうがよいです。

A-22 張燕
すごくよかったです。

◆質問 22. 本プログラムを運営しているユネスコ・アジア文化センター（ACCU）について、ご意見やご要望などがありましたら自由に書いて下さい
（アンケート有効数：10）

A-11 孫寧
よかったです。

A-24 宋光禎
とてもよかったです。ACCU がしてくれたたくさんのことに感謝です。

A-21 楊富毅
ACCU（中日両国の文化をよく知り、中日両国をよく往来する人）と中国側の担当者に通訳になってもらったので、文化差異による誤解が避けられました。

A-25 賈小梅
ACCU の皆さんは最初から最後まで大変だがすごく暖かく見守ってくれました。ほんとにありがとうございました。

◆◆総括◆◆

参加者の 9 割近くがこのプログラムに対して「とても満足」しており、残りも「満足」と回答した（質問 1）。

参加者の 8 割が今回初来日であり（質問 8）、日本の教育全般に対する関心と理解においては、プログラム参加前は「普通」「低い」が 6 割近く、プログラム参加後には「高い」が 8 割、残りは「とても高い」とし（質問 9）、プログラムがある程度の理解を促す一助となったことが示された。同様に、国際理解教育や ESD、日本に関する理解度（質問 11、12）においても、プログラム参加前は「低い」「普通」が 6 割～8 割近く占めていたが、参加後はその数が減り、「高い」「とても高い」が 9 割以上を占めるまでに増加した。

将来に向かっては、これからさらに日本の教育や文化について学びたいと「思う」「とても思う」（質問 14）、帰国後はプログラム期間中の経験を児童生徒や同僚に報告しようと「思う」「とても思う」（質問 16）、プログラムを通じての見聞、経験を自身の教育、あらたな教育活動の開拓に利用「したい」「ぜひしたい」参加者が 9 割以上を占めた。

さらに、今回の訪問校の教職員との交流の促進・継続の意思については、参加者の 9 割近くがしたいと「思う」「とても思う」と答え、中国教職員招へいプログラムの継続は「絶対必要」「必要」と考える参加者は全員であった。

その他、いただいたコメントの中には、もっと多くの交流時間に対する要望があった。今後の事業計画・運営においては、引き続き各教育機関と相談・連携しつつ、可能な限りその時間を多く設けられるよう調整していく。

～～～～～

以下に、スケジュールや内容に対する参加者の感想・意見等を掲載する（回答は無記名による）。掲載にあたっては、ランダムに 4 人分を抽出している（原文は中国語）。

◇オリエンテーション

・熱烈で情熱的で、手厚くもてなされている感じがしました。
・各活動は時間的に合理的で、スケジュールは秩序的でした。内容は明確で、収穫が多かったです。
・スケジュールは合理的で、行き届いています。雰囲気は熱烈でありました。いいスタートは半分成功ともいえますね。
・ACCU はたくさん準備してくれました。

◇開会式・歓迎交流会（東京）

・開幕式、歓迎交流会は盛り上がり、言葉は通じないが、中日教師は努力して交流をし、たくさん意見交換をしました。
・歓迎交流会では日本の先生たちと交流ができ、後日の訪問にいい基礎を築けました。オリエンテーションでは全体的なスケジュールを説明してくれて、開幕式と歓迎交流会は和やかな雰囲気で行われ、交流を深めました。
・歓迎交流会は情熱あふれて、料理も手が込んでいて、すごく充実した時間を過ごしました。
・歓迎交流会では前に派遣プログラムで中国に来た日本人教職員と再会し、お互いの距離を縮めました。

◇文部科学省訪問（講義を含む）

・日本の教育に関して全体的に把握できました。日本の教育のトップデザインは生きる力を重視し、未来に適用する人材を育てることだということを知りました。資料が中国語だったので、重要なキーワードはすぐに掴むことができ、後の交流に役立ちました。
・文部科学省の関連担当者は、学校体系、義務教育制度概要、教育行政領域での中央・都道府県・市町村の責任、教育委員会制度の組織とモットー、日本学校教育の特徴、学習指導綱領などについて詳しく紹介してくれて、日本の基礎教育に深い理解を得ることができました。
・講義の質疑応答の時間はちょっと少なかったが、他の時間は順調に進行し、内容は充実していました。
・文部科学省訪問の時、「日本の初等中等教育の概要」の講義を聞き、日本の教員は授業だけでなく、生徒の生活指導、サークル指導などの仕事もあると聞きました。目的は生徒の生活能力を育成するためです。「ゆとり教育」でもなく「詰め込み教育」でもなく、社会が必要なあらゆる面で発達した生徒を育成するのです。

◇学校法人自由学園

・自由学園は体験を重視し、生徒の個性を重視し、自然を愛し、最大限に生徒の能動性を発揮させている。ただ、男女別の教育は生徒の成長の潜在的な欠陥になるかもしれない。
・私たち一行 25 人と日本側関係者は一緒に自由学園へ入り、第一印象はキャンパス環境が綺麗で、教育活動が秩序的であったことだ。お昼には男子部の生徒・保護者・教師と一緒に食事をするチャンスを得た。生徒たちは静かに食事をし、しゃべる声は聞こえなかった。そのあと学園長は素晴らしいプレゼンをしてくれた。生活は教育であり、社会は学校であり、天地は書簡であるという学園長の言葉はまさにこの学校が見せてくれた通りでした。プレゼンが終わった後、

簡単な交流をした。一番印象的なのは二人の中国人留生徒の交流で、それを通じ、この学校をさらにすごいと思った。自由学園は生徒が自ら学び、考える独立した個人としての能力を育て、生きる力や自己管理能力を育成している。

・自由学園は創立百年の名門校で、深い文化と特徴があり、学校の理念もすごくよかった。カリキュラムは生徒の特徴に準じ、それぞれの生徒にはそれぞれの授業と人生計画がありました。給食体験はすごく楽しかった。

・自由学園では、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学まで一体化した独特な学校形式を知り、公園のようにきれいなキャンパスを身をもって感じ、当校の「生活は教育である」という教育理念を体験した。

◇大牟田市教育委員会のオリエンテーション・市長表敬訪問・歓迎晩さん会

・大牟田教育委員会説明会で、大牟田市の全ての小中学校は 2012 年に一斉にユネスコスクールに加盟し、持続可能な教育を推進していることを知った。大牟田市の三池炭鉱関連遺産は世界文化遺産と認定された。歓迎交流会では大牟田市の美味しい食事をいただき、各学校の教職員と一緒に友好的な交流をした。

・1. 会議資料は準備万端で、説明が分かりやすい。
2. 市長（副市長)、教育委員会教育長が説明に加わり、発言は簡潔で説得力があった。大牟田市の概況と教育の状況の概要を知った。
3. 歓迎交流会は情熱あふれてにぎやかであった。日本の美味しい食べ物をいただき、学校の教職員たちと親切に交流し、名刺を交換した。

・接待が情熱的で説明が詳しく、交流会が情熱的で深く交流することができ、時間は合理的であった。

・大牟田市教育委員会は充分準備してくれて、資料は豊富で、紹介は分かりやすく、接待は情熱的であった。歓迎交流会では、通訳のおかげで順調に交流することが出来た。収穫がたくさんあり、雰囲気もよかった。

◇大牟田市立明治小学校

・時間的に合理性が高く、効率がよかった。

・活動の内容は全部実践重視で、有意義であった。校長先生、教師たちと生徒たちの情熱にすごく感動した。校長先生の紹介を通じ、授業現場を見学し、生徒と一緒に給食を体験した。一緒に体育活動に参加し、生徒に中国文化について教え、対面で明治小学校の学校状況を知った。教師たちのプロ意識や生徒たちの責任感、校長先生の経営理念に感心した。また、さまざまな活動を通じ、各教育目標が着実に実現しつつあることに気付き、生徒にもその成果を感じた。当校の教育スタイルに賛同する。

・明治小学校は中国代表団に自身の特色と活動をみせてくれた。授業体験、食事交流、自由活動等を通じ、貴校の教育理念や教育目標は学校課程の実践に根付いていることに気付いた。

・小学校の教師生徒と深く交流することができた。すごくいい経験だった。児童生徒の一日に全面的に参加し、このような活動はすごくよかったです。特に食事交流と共同掃除、昼間のアウトドア活動等、近距離で生徒と接触し、交流や理解を深め、友情を促進した。

◇大牟田市立宮原中学校

・1. 宮原中学校の校長は充分準備してくれて、詳しく紹介してくれた。
2. 私たちは社会、音楽、物理、化学など 9

つの授業に入り、真剣に教壇に立つ先生方の姿に感動した。

3. 生徒たちの剣道パフォーマンスをみて、92 名の生徒のコーラスを聞き、当校の特色のある教育に感心した。

・宮原中学校は一般の生徒の全人的に発達させることを重視するだけでなく、障害のある生徒でも特別支援を提供している。

・宮原中学校の多彩なカリキュラム設置は考えさせてくれた。特に特殊教育の生徒の教育は人間重視の教育理念を表している。

・大牟田市立宮原中学校は志が高く、自分の考えを行動に繋げる生徒の育成という教育目標はすごく印象的であった。修学旅行では英語で大牟田市を紹介する地元愛の教育は学ぶところである。コーラスと剣道パフォーマンスはほんとうに素晴らしかった。

◇福岡県立三池高等学校

・三池高校は優秀人な材を育てる学校であり、学校の教育目標は実践的で、生徒に勇敢なる時代の担い手になってもらうことを目指している。当校のサークル活動は豊かで、生徒の全人的な発達を重視している。

・三池高校は高校でありながら、知育以外の様々の面の教育も怠らず、生徒は全人的に発達することができる。

・学校の状況を全面的に知ることができたが、時間はちょっと少なく、深く知ることができませんでした。教育活動は豊かであった。

・訪問の時間は合理的で、各活動は秩序的であった。活動内容は多様で、交流の雰囲気は熱烈であった。学校の特色文化と経営理念を感じた。校長先生とその管理チームが情熱的で、生徒は真心で向き合い、すごく勉強になった。

◇報告会・閉会式

・報告会・閉幕式では中国基礎教育教職員訪問団副団長が発表した。今回の訪問は三つの成功があった：両国教育界の相互理解を促進すること；日本の徳育教育重視を感じたこと；日本の教育の均衡のとれた発展の条件と平等についての認識。

・報告会・閉幕式：雰囲気がよく、情熱があふれていた。文科省、大使館、ACCU あと四つの学校の校長先生が出席し、スピーチした。

・まとめの部分に感心した。まだ中日お互い学びあうべきものが多い。

・報告会と閉幕式はすごくよく、時間の設置も合理的で、効率が高く、内容が豊富であった。

◇世界遺産「宮原坑」「三池港」「石炭産業科学館」

・宮原坑、三池港、石炭科学館を見学し、世界文化遺産を知ることができ、学校の持続可能な文化遺産教育の生徒への影響と育成方法を知った。日本は文化遺産の保護と開発再利用を重視している。

・宮原坑と三池港を見学することで、日本の悠久たる歴史と文化を知ることができた。

・児童生徒の歴史遺跡文化への理解は深く、日常的に彼らの科学素養を高めているはずだ。

・文化遺産の保護はよくできており、文化遺産を利用して教育と結びつけるのは成功である。

4. 関係者コメント

学校法人自由学園男子部
教諭　菅野 広樹

プログラムの全体的な感想・印象

6月に中国教育機関への訪問プログラムに参加させていただき、今回の受け入れでは恩返しの気持ちを込めて準備を進めました。本校への訪問では、中国教職員の方々が本校生徒や教職員との交流を通して有意義な時間を過ごしていただけたようで大変うれしく思っております。

特に、本校在籍の中国にルーツのある生徒との中国語での交流では、中国教職員の方々が大変楽しそうに会話されていたのが印象的でした。限られた時間でしたので次のプログラムに移る際には大変名残惜しそうにされていました。

また、訪問団の方々が、自由学園が目指す教育や理念に対して共感的に理解を示してくださったことも大変うれしく思いしました。

児童・生徒の成果

今回のプログラムで本校生徒は大きく3つの場面でかかわりがありました。まず、男子部ホールにて昼食をご一緒にいただいたこと、次に、中学2年生が英語の授業で中国教職員の方々との英会話に挑戦したこと。最後に、中国にルーツを持つ生徒が校内案内と交流会をしたことです。

それぞれの場面で国際的な交流を経験し、生徒にとって学びがあったことと思います。中国の教員の方と英会話をした生徒の一人は自宅で、「中国の先生との交流が楽しかった。名刺をもらえてうれしかった」と興奮して語っていたと保護者の方から報告がありました。

また、中国にルーツのある生徒たちも日本においては中国教職員の先生方とお話しする機会はほとんどないことから、今回は貴重な機会であり、また大変楽しかったという声が多かったです。

教職員・学校の成果

中国の先生方との交流の中で、本校のことを知っていただけたことは大きな成果であったと感じております。本校独自の教育の目標や理念について共感的に理解していただけたことは大変ありがたいことです。また、それぞれの国や地域で社会的背景がある中で、子どもたちをよりよく育てるという思いは変わらいないということを再認識できました。

今後も日本と中国との交流を進め、相互理解を深めていきたいと考えます。また、今回得た経験や学びを活かし、生徒も教員も国際的な視野を持ち「地球市民」としてこれからの世界をよりよくすることにも繋げていきたいと思います。

苦労した点・困難だったこと

今回のプログラムを企画運営するにあったっては、ACCU の伊藤さんが精力的にサポートしてくださり、大変助かりました。

当日までのところでは、本学は部ごとに分かれており、学内調整に時間がかかったことがあります。また、学期中であったことから学校説明をする広い部屋が確保できなかったこともありました。

当日は、プログラムの進行に想像以上に時間がかかりました。もっと余裕を持たせる必要があったなと感じております。

加えるとよいと考える活動

中国の先生方から中国の学校のことを伺う場面があってもよかったなと思いました。今回は、こちらの学校のことを伝えることを主としていましたが、時間をとることができれば、半日ほど使い、ワークショップの形で各学校や行政での教育課題を共有し、お互いの取り組みを比較検討するような時間が取れると有意義かなと感じました。

プログラム改善に向けた助言

このような機会をいただき大変ありがたく思います。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

大牟田市教育委員会
指導主事　中村 敏明

プログラムの全体的な感想・印象

大変お世話になりました。

事前打ち合わせを密にしていただきましたので、スムーズにスケジュール通り進めることができました。また、事前に、プレゼンや資料の中国語訳をしていただいたことで、より大牟田市、各学校における取組について理解いただけたのではないかと思います。

今回、中国の教職員の訪問を通して、中国の教職員の方々の熱心な姿に感心させられました。また、今回、交流をさせていただいて、中国との距離が近づいたように感じます。

児童・生徒の成果

小学校、中学校、高等学校それぞれにおいて、中国の先生方に喜んでもらおうと日程や内容を工夫していただきました。中国の先生方にもそんな思いが届いたのではないかと思います。

子どもたちは、メディアを通してしか中国について理解することができていませんでしたが、今回の交流では、日本の文化や学校の活動を積極的に紹介するとともに、ふれあいを通して、友好の心情を育むことができたのではないかと思います。

教職員・学校の成果

今回、直接中国の教職員の方々とふれ合いことができ、熱心に質問されたり、日本の素晴らしさを語られたりする姿から、教育に対する熱い思いを感じることができました。

食事会もはじめは，コミュニケーションが取れるか心配しておりましたが、お互いの国の文化や学校の様子等について語り合い、友好を深めることができました。

また、今回の大牟田市の訪問を通して、大牟田市の ESD をはじめとする取組や子どもたちのよさをたくさん語っていただき、本市の取組のよさを見つめ直すいい機会となりました。

苦労した点・困難だったこと

多くの方々をお迎えするということで、詳細までの調整・準備に時間を要しましたが、お別れの際の中国の教職員の方々の充実した表情が、とても嬉しかったです。至らない点も多々あったとは存じますが、ACCU の進藤部長をはじめ、担当の伊藤様にたくさんサポートしていただきました。ありがとうございました。

加えるとよいと考える活動

特にございませんが、時間が許すならば、中学校や高等学校の生徒との交流を取り入れてもいいかなと思いました。

プログラム改善に向けた助言

他の文化や教育に触れると言うことは，自分自身の視野を広げるとともに、自らの学校や文のよさを見つめ直すいい機会となると考えます。今後も事業していただけたらと思います。

大牟田市立明治小学校
校長　宮下 哲夫

プログラムの全体的な感想・印象

今回の中国政教職員招聘プログラムでは、訪問校の大役を仰せつかり、大変緊張した１日となりました。微力でしたが、団長、団員の皆様のご理解とご協力のおかげで、どうにか務めることができました。また、ACCU の皆様には、事前の計画と準備だけでなく、プログラムにもご同行頂き、心強く感じました。お世話して頂いたことに厚くお礼申し上げます。

さて、今回のプログラムでは、授業を参観してもらうだけでなく、子どもたちとも十分な交流の時間がありました。子どもたちは、団長をはじめ諸先生方の話を伺う中で、中国の教育制度、地域事情について、しっかり学ばせて頂きました。

児童・生徒の成果

児童らは、日本の文化や学校の活動を積極的に紹介するとともに、中国教職員とふれあい、友好の心情を育みました。私自身がこれまでの中国への派遣事業で感じた友好交流と国際協力の実感を本校児童も同様に味わっていると思いました。

今後、日本の子も中国の子も互いに手を取り合う、さらにグローバルな人材へと育てることが大切です。今回のプログラムは、学校間、教師間の相互理解、友好交流がその基盤となることを実感させてくれました。

教職員・学校の成果

事前に中国の教育制度の概要、学校教育の現状等、私の５回に渡る実際の訪問で得た知識などについて伝えるため、職員研修を行いました。本校において、ESD の取組をさらに充実させ、日中共通の課題意識を持って交流していくことで、本校の児童にとって意義のある国際交流になるように切望する旨を伝えました。

実際の訪問に際し、中国の子も日本の子もよりグローバルな人材として、互いに手を取り合っていく未来をつくるためには、まず教師間の相互理解、友好交流が必要であり、そのため、今回の訪問で日本の教育・文化について積極的に伝えるとともに、中国の教育・文化について認識を深めることができたことが有益であったと思いました。

苦労した点・困難だったこと

特記事項なし

加えるとよいと考える活動

特記事項なし

プログラム改善に向けた助言

充実した学び･日本教職員との相互の絆、訪問団一同に培われたものは、確固たるものであると思います。次年度以降についても、同様の成果が期待できると思います。

大牟田市立宮原中学校
校長　野田 環紀

プログラムの全体的な感想・印象

初日に歓迎食事会を開催していただいたことで、中国教職員の皆様と一気に距離が縮まって、本校に来校される日が待ち遠しかったです。本校は半日の訪問でしたが、授業を参観していただいて、熱心に質問される中で、中国の先生方の日本の教育に対する興味の深さを感じました。中でも、特別支援学級の授業参観では、直接子どもたちに色々な質問をされて、子どもたちもそれに答えるなどキャッチボールができ、中国に対して、身近な国ととらえることができたようです。報告会の折に、副団長、石建平様から本校の取組について感想を話されたとき、本校の教育を中国の方の言葉を通して聞くことができ、改めて、学校経営の重要性を認識したところです。

児童・生徒の成果

まず、中国からお客様がお見えになるということで、子どもたちは、自然発生的にあいさつは「ニイハオ」でいいかどうか、自分たちで話し合っていました。来校される少し前から、校内が中国モードとなっていました。また本校は、来校される当日の午後から合唱コンクールを予定していたこともあって、中国教職員の方々が来校された時は、2年生が学年合唱を披露することにしていました。お互いに歌の交換をすることで、中国の教職員の方々と心の交流をすることができたように思われました。近くの国にも関わらず、接する機会が少ない近隣諸国の方々とお会いすることで、一気に壁が取り払われたように見えました。直接、個人的にお話をすることは時間の関係でできなかったのですが、子どもたちはお別れの時、列からはみ出して握手を求めに行っていました。もっとたくさん交流したかったとの声もありました。子どもたちの中には、将来は中国など世界を視野に入れて活躍する者が出てくると思います。そういう意味に於いては、将来に影響する貴重な出会いだったと感じています。

教職員・学校の成果

・自校の「SDGs や ESD に関わる実践の見直し」ができたこと。
・生徒の中国に関する関心を高めたこと。
・実践を再構成したことで、「宮原中ブランドの教育」の方途のヒントが得られたこと。
・中国の先生方と貴重な交流の機会を持つことができたこと。今後の交流が見込まれること。
・ACCU の方々に本校を訪問していただき、実践をみていただいたこと。

教員からも以下のような言葉を聞くことができました。本校は、ESD の取組などで、幼・保、小、高、特別支援学校、高専などと交流をしています。純粋に人と人とが出会うとき、時間の長

短に関わらず、その別れが切ないことをたくさん経験しているので、そのような気持ちになったのかも知れません。
・短い時間の出会いでしたが、もっと交流したかった。
・帰られるときはなんだか寂しい気持ちになった。
・中国の先生方が歌を歌ってくださるとは思わなかった。
・これからの子どもたちにとって、海外の方と関わりを持つことの重要性を感じた。

苦労した点・困難だったこと
・短時間で、プログラムを構成しなければならなかったこと。
・生徒との交流プログラムを十分に確保できなかったこと。
・日本語を中国語に通訳する際に、予想以上に長い文章になることを想定していなかったために説明が十分にできなかったこと。

加えるとよいと考える活動
今回、「大牟田市」として、小・中・高のパッケージで、この訪問を受け入れたので、全体のバランスはよかったと思います。中学校のみの単体の受け入れであれば、様々な内容が考えられます。

プログラム改善に向けた助言
・事前に ACCU の担当の方が、直接、訪問されたので、大変ありがたかったです。やはり、Face to Face で話をすることが一番大切だと思います。
・ACCU さんのこれまでの実践のノウハウがあるので、大丈夫だと思います。

福岡県立三池高等学校
教頭　中島 敦雄

プログラムの全体的な感想・印象
本校では、学食での昼食、授業参観、意見交流会を実施させていただきました。時間の関係上生徒達との直接の交流はできませんでしたが、様々な教科の学習や本校が誇る邦楽部の演奏も鑑賞していただき高等学校の教育の一端をお見せすることができたのではないかと思います。中国の先生方にも喜んでいただきよかったです。また、中国の先生方の熱心に質問される姿に、中国の先生方の教育に対する思いと日本の教育に対する興味の深さを感じました。

児童・生徒の成果
今回のプログラムでは、直接の交流はありませんでしたが、学習の様子や邦楽部の演奏を見ていただいたことは、生徒達にとってよい刺激になったかと思います。

教職員・学校の成果
今回は、大牟田市教育委員会より声をかけていただき、訪問していただくことになりましたが、このような教育や文化の交流を通して、互いの理解を深めていくことは、とても大切なことであると改めて感じました。

苦労した点・困難だったこと

中国の先生方に喜んでいただけるように、プログラムや内容等を職員で工夫しました。
質問の内容等がある程度把握できていれば、より充実した意見交流ができるのではないかと思います。

加えるとよいと考える活動

このような機会をいただきましてありがとうございました。直接ふれあう・交流する体験は、お互いのことを正しく理解する上で大切なことだと思います。今回はプロクラム上実施できませんでしたが、生徒との意見交流等も有効ではないかと思います。

事業担当者コメント

中国の先生方をお迎えするにあたり、どのようなテーマをもってプログラムを組み立てればよいか悩みました。6月に中国政府日本教職員プログラムで中国を訪れた際、授業内容や学校設備においても最先端をいくソフト・ハード面で充実している学校を視察させていただき、中国の先生方がどのような問題意識をお持ちかを訪問先で探しました。その中で、中国ではそれほど一般的でない給食や食育、掃除の時間に関するキーワードが挙がりました。

これらを手掛かりに、日本での受入校・受入機関を見つける段階では、交流の継続も重視しながら、これまで派遣プログラムに参加経験のある先生の学校を中心に考えました。訪問校の一つ目としては、食育にも定評があり、生活と教育の結びつきを大切にしている学校法人自由学園にお願いしました。教員の海外派遣にも積極的であることのみならず、海外教職員の受入れの実績もある学校です。6月には共に中国の教育機関を視察した菅野広樹先生が中心となり、生徒と教員の交流を含めた内容が実現しました。中国からの留学生と中国の先生方の交流が今までにない試みであったと思います。

地域プログラムでは、ESDに力を入れている福岡県大牟田市教育委員会にお願いいたしました。教育長の安田昌則先生をはじめ、多くの先生方の温かく・心強いサポートで、大牟田市にある3つの小学校・中学校・高等学校に訪問させていただきました。各校では先生方が綿密に計画を練って、連携してくださったことにより、短い期間に学校の特徴や強み、良さが感じられる、多くの示唆に富んだ内容でした。特に、朝から夕方まで大牟田市立明治小学校で一日を過ごし、先生や生徒の様子を多方面から観察できたことが、中国の先生方にとって貴重な経験となったようです。

あらためて、このプログラムにご協力くださいました、すべての先生方、児童・生徒の皆様、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
国際教育交流部　伊藤　妙恵

付録

付録①：写真

開会式・歓迎交流会

姜団長（左）と MEXT 大臣官房国際課奈良課長（右）

姜団長（左）と ACCU 田村理事長（右）

訪問団

MEXT 新井氏（右）と訪問団員（右）

訪問団と 6 月に訪中した日本教職員

訪問団

文部科学省

姜団長（左）と MEXT 寺島国際戦略企画室長（右）

講義を聴く様子

学校法人自由学園

通訳の生徒（左）と訪問団を代表して
あいさつ

英語の授業で生徒（右）と英会話を
楽しむ

生徒（左）とともに「お食事」

学校施設見学

大牟田市教育委員会

オリエンテーションの様子

市長表敬訪問での記念撮影

大牟田市立明治小学校

授業見学

生徒とともに給食体験

大牟田市立宮原中学校

生徒代表から歓迎のことば

剣道を体験する様子

福岡県立三池高等学校

授業見学（家庭科）

質疑応答

世界遺産視察

宮原坑にて子どもガイド（大牟田市立駛馬小学校の児童）のあいさつ

子どもガイドの案内風景

「第二たて坑」（高さ約 22m）

石炭産業科学館

磁力で鉄の玉を走らせている

空気の力でボールを飛ばしている

軸の回転により、羽を浮かせている

大牟田市公認の「ジャー坊」の登場

三井港倶楽部

付録②：新聞記事

有明新報（大牟田荒尾版）
2018 年 11 月 9 日（金）一面記事

有明新報社
社
田市有明町1-1-17
52-1212(代)
(株) 85-7080(営業販売)
(代) 57-5144(総務)
方総局
川市筑紫町407-6
(代) FAX73-5047
1730-1-19354
ake-news.co.jp

きょうの紙面
2面
3面
5面
6面
7面

有明新報
THE ARIAKE SHIN

大牟田のESD視察
中国から教職員25人訪問
特色ある教育現場を評価

ESD先進地の取り組みを学ぼうと、中国の教職員ら25人が大牟田市を訪問している。7日には、同市明治小学校（宮下哲夫校長）の授業を視察。児童とふれあい、特色ある教育現場を見学した。

訪問しているのは中国の小中学校教員や日本の文部科学省に当たる機関の職員など。日中両国の相互理解や友好、持続可能な社会の実現を目的に、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターが企画・運営している。訪日団は4日に来日し、東京の文部科学省を訪れるなどした後、6日に大牟田に到着した。9日まで、明治小学校や宮原中学校、三池高校などを視察し、10日に帰国する予定。

明治小学校では、みどりの教室や習字、電子黒板を使った外国語活動の授業などを見て回り、児童との交流も行った。このうち、みどりの教室では1、2年生が明治第一公園内で秋の葉っぱを探したり、公園内の木々について説明を受けたりする様子を見学。学習の様子を写真に撮るなどしていた。

訪日団団長で教育部基礎教育司の姜瑾さんは「日本が国を挙げてESD教育に取り組んでいて、大牟田はその中でも進んでいることが分かった。こういった取り組みを実践するのは簡単ではなく、子どもたちが自分たちの文化や歴史に関心を持ち、大切に守らなければならないと思っているからこそできる」と評価した。（矢野　大輔）

児童の学習風景を視察する中国の教員ら

坊は2位でブライン
間に突入した。この時点で
トップとの差は約9万5千
票と大きく離されている。
しかし最後まで諦めずに

バー約15人が参加。ジャー
坊のテーマ2018選挙バ
ージョンが流れる中、メン
バーたちは「投票よろしく

を励まそうと壮行会が10日
午前11時15分から、銀座通
り商店街で開かれる。
（小柳　聡）

大牟田市立明治小学校 宮下哲夫校長から新聞一部ずつ、
訪問団一人ひとりにプレゼントされた

付録③：中国訪問団の報告会資料

1

日本訪問のまとめ

中国基礎教育教職員訪日代表団

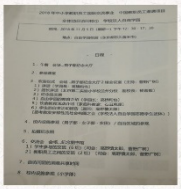
二〇一八年十一月

2

11月4日より，2018年度中国基礎教育教職員訪問団一行25人は、ACCUの招聘により、日本の各教育行政部門や初等中等学校に訪問できたことを、訪問団を代表して、深く感謝申し上げます。

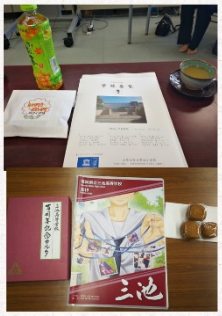
3

綿密で詳細なスケジュールと説明



4

精美な訪問先資料と記念品



5

訪問先学校の真摯な歓迎

6

目次

一 訪問の内容
二 訪問の成果
三 訪問の所感

7

一

訪問の内容

8

この度のプログラムでは、日本の文部科学省、大牟田市副市長、市教育委員会，東京自由学院、大牟田市明治小学校、宮原中学校、三池高等学校を訪問しました。

9

文部科学省表敬訪問

10 文部科学省表敬訪問

11 大牟田市訪問

12 自由学園

明治小学校

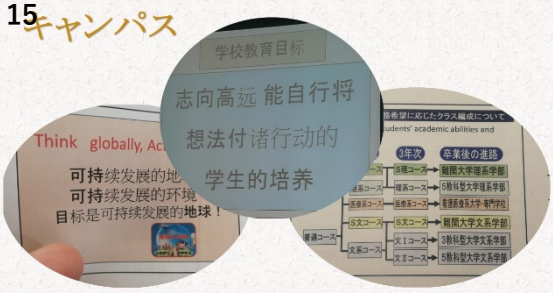
13 宮原中学校

三池高等学校

14

キャンパス

15 キャンパス



16

特色あるカリキュラムと部活動

17

学習

18 交流

19

学生との交流

20

二、訪問の成果

21

二、日中両国の交流を促進し，両国の教育界、特に基礎教育における理解を深めました。

22

学生との更なる交流

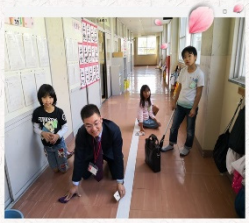
23

三、日本の学生や学校、都市や国家を直に感じ、日本の伝統文化、風習、暮らしや食事、そしてファッションを体感できました。

24

栄養豊富な給食体験

25



共に労働する楽しさ

26

歓迎食事会での交流

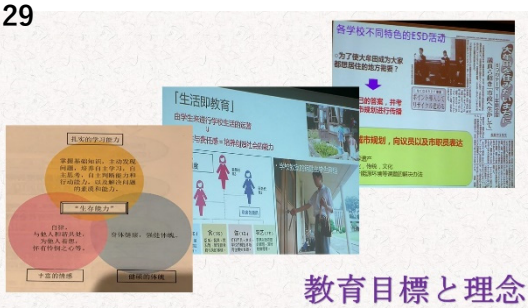
27

郷に入れば郷に従う

28

三、日本の教育、特に基礎教育制度や現状、理念、そして教授法に関する理解を深めました。

29



教育目標と理念

30

教育目標と理念

31

三

訪問の所感

32

日本の基礎教育に対する
総括的な印象

“科学的で実践的”

33

34

一　道徳教育を重視

35

故郷を思い　お年寄りを思いやる

36

二　教養教育を重視

37

学生の全面的な成長を重視

38

三　基礎教育の均衡的な発展

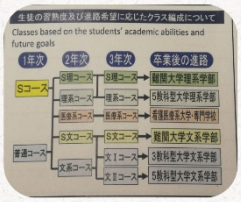
39

40

四 独特のカリキュラム体系

41

学校ごとの特色あるカリキュラム設計



42

自立能力の育み

43

豊富なカリキュラム

44

五 鮮明な学校文化

45

特色ある教育活動

46

六 教育協同発展システム

47

政府から地方まで職務と責任を全う

48

政府、コミュニティ、家庭が一丸となり
教育に取り組む

49

50

2018年度中国初等中等教育訪問団の日本訪問は大成功でした

51

※パワーポイントの原本は中国語表記であるが、ACCU により日本語翻訳したものを掲載している。
※便宜上、各スライドの左上に番号を付している。

付録④：これまでのプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
第 1 回： 2002 年 12 月 1 日～14 日	東京都、和歌山県、岡山県、広島県、高知県、 大阪府、京都府	97 名
第 2 回： 2003 年 11 月 26 日～12 月 9 日	東京都、熊本県、愛知県、島根県、徳島県、 大阪府、　京都府、奈良県	100 名
第 3 回： 2004 年 11 月 18 日～12 月 1 日	東京都、宮城県、長崎県、宮崎県、沖縄県、 大阪府、　京都府、奈良県	99 名
第 4 回： 2005 年 10 月 18 日～31 日	東京都、長野県、福井県、和歌山県、宮崎県、 大阪府	101 名
第 5 回： 2006 年 10 月 18 日～31 日	東京都、千葉県八街市、埼玉県、岐阜県、高知県、 山口県柳井市、大阪府、奈良県	135 名
第 6 回： 2007 年 10 月 16 日～29 日	東京都、千葉県八街市、岡山県総社市、 富山県南砺市、三重県、岐阜県、大阪府、奈良県	135 名
第 7 回： 2008 年 10 月 14 日～27 日	東京都、宮城県気仙沼市、福島県、京都府与謝野町、 香川県、福岡県北九州市、大阪府、京都府	133 名
第 8 回： 2009 年 10 月 13 日～26 日	東京都、岡山県総社市、熊本県植木町、沖縄県那覇市、 千葉県成田市、埼玉県さいたま市、大阪府、京都府	142 名
第 9 回： 2010 年 10 月 12 日～25 日	東京都、秋田県大仙市、滋賀県近江八幡市、宮城県気仙 沼市、長崎県壱岐市、長崎県、大阪府、京都府	130 名
第 10 回： 2011 年 10 月 12 日～23 日	東京都、山口県美祢市、熊本県荒尾市、東京都多摩市、 岡山県総社市、徳島県、大阪府、京都府	134 名
第 11 回： 第 1 班：2013 年 11 月 13 日～24 日 第 2 班：2013 年 12 月 1 日～10 日	第 1 班：東京都、大阪府 第 2 班：東京都	第 1 班：50 名 第 2 班：49 名
第 12 回： 2013 年 10 月 20 日～28 日	東京都、熊本県荒尾市、岡山県総社市、長崎県長崎市、 和歌山県、大阪府	59 名
第 12 回：(追加プログラム) 2014 年 9 月 21 日～29 日	東京都	29 名
第 13 回： 第 1 班：2014 年 10 月 19 日～27 日 第 2 班：2014 年 11 月 16 日～24 日	第 1 班：東京都、東京都多摩市 第 2 班：東京都、熊本県荒尾市、長崎県長崎市、福岡県	第 1 班：34 名 第 2 班：63 名
第 14 回： 2016 年 1 月 18 日～24 日	東京都、熊本県荒尾市、長崎県長崎市、石川県小松市、 福岡県	98 名
第 15 回： 第 1 班：2016 年 11 月 7 日～13 日 第 2 班：2016 年 11 月 28 日～12 月 4 日	第 1 班：東京都、高知県 第 2 班：東京都、奈良市、京都府	第 1 班：20 名 第 2 班：20 名
第 16 回： 2017 年 11 月 14 日～21 日	東京都、横浜市、京都府	29 名
第 17 回： 2018 年 11 月 4 日～10 日	東京都、福岡県大牟田市	25 名

計 1,682 名

※ 2003 年度から 2017 年度は国際連合大学「国際教育交流事業」として、2018 度以降は文部科学省「平成 30 年度初等中等教職員国際交流事業」として、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターが委託を受けて実施・運営。

文部科学省委託 平成３０年度初等中等教職員国際交流事業

中国教職員招へいプログラム　実施報告書

2019 年 2 月

編集・発行　公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 1-32-7F　出版クラブビル
電話　　(03)5577-2853
Email　accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL　　http://www.accu.or.jp

Printed in Japan by WACO Inc.
ⓒ2018 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)

Think Globally, Act Locally

ACCU
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター